

# 京極読書新聞 <第72号>

発行日 平成27年10月1日(木)  
京極町生涯学習センター湧学館

## 京極中学校 職場体験 2015

9月8日(火)～9日(水)



毎年この時期に行われる京極中学校・職場体験学習(2年生)。今年は、村田優菜さん、細田亜香音さん、女子2名の職場体験でした。

1日目は図書館の仕事の入門編。図書館は、たとえ6万冊もの本があっても、子どもからお年寄りまで、誰でも簡単に探している本に行き着けるようにさまざまな工夫がこらされています。それは、本の分類であったり、書架の配置だったり、センスのよい展示であったりするのですが、まずは、そういう図書館業務の基本的な約束事をおぼえてもらいました。

そして、2日目はその応用編。本の修理がおもしろくても、カウンターが混み出したら、作業を中断してカウンターの応援に入る…といった、状況を読む力が図書館の仕事には必要です。2人とも(というより、毎年の湧学館職場体験の京中生は)このセンスに優れている人が

多く、湧学館の職員一同いつも感心しています。京極中学校の事前準備の良さもあるのでしょう。また、1日目の基本的説明で、図書館の仕事の要点を正確に理解する頭の良さが、2日目の動きの良さに反映しているのではないかと感じています。

インタビューでもふれています通り、今年度は湧学館にとっても変化の年です。「集密書架」など、今までの職場体験ではなかったものも登場してきていて、いろいろと新しい湧学館を楽しめたのではないのでしょうか。

<湧学館・新谷保人>

京極読書新聞は  
毎月1日発行です。





## 湧学館の職場体験を無事終えて…

### ～京中生インタビュー2015 特別編～

新谷 お疲れ様です。京極中学校の職場体験。今回は、湧学館に新しい本が入ってきて、その本を書架に出せるようにいろいろ装備をして、書架に出たその本が利用者の人に借りられて行って、読み終わったので返却されて、その本がまた書架にもどって行くという流れに沿って、2日間の覚えてもらう仕事を組み立てました。検品～帯貼り～展示～カウンター（貸出・返却）～書架返却と順を追って説明したのでわかりやすかったと思います。その流れの途中で、返ってきた本が壊れていた場合は本の修理へ…とか、いろいろな他の仕事の要素をまじえて説明しました。印象に残っている仕事とか、ありましたか？

村田 あの、ハンドルをまわすやつがおもしろかったです。

新谷 ハンドル？ ああ、書庫の集密書架ですね。

村田 図書館の、普段はなかなか入れない奥に、あんな設備があったなんて、本当にびっくりしました。

新谷 集密書架は今年の7月に工事を行ったばかりです。10月の「湧学館まつり」でお披露目を予定しているんですけど、関係者以外で集密書架を使ったの、今回が初めてじゃないかな。

細田 私は、本の帯を内側に貼り付けたりする装備の仕事がおもしろいと思いました。本に

ビニールカバーをかける作業もおもしろかった。

村田 あの「ブッカー」、いいですね。市販されているんですか？

新谷 湧学館まつりで「本のびょういん」をやっている時にもよく聞かれるんですけど。私は業務用のものしか見たことないですね。



細田 本の修理の実習で、ページが外れたりして壊れていた（自分の）本を直せたのがよかった。テープじゃなくて、糊を使って直すのが意外でした。

新谷 あの糊は「ビニール糊」といって、塗って乾くのに一晩かかるという糊なんですけど、乾いたら最後、ちょっとやそっとの力では引き剥がせない超・強力糊です。

細田 図書館って、仕事のいろいろなところで、ちょっとした仕掛けがあったり、不思議な道具があったりして、楽しいです。特に本の修理は、本の直し方や、本の形がいびつにならないように気をつけながら仕上げに行くやり方を見て、本の造りや扱い方を深く学ぶことができました。

新谷 「京中生インタビュー」や「京中職場体験」の、私のいちばんの楽しみは、今の若い人たちが読んでる本を直接知ることができる点ですね。自分じゃなかなか手にとることはない本が次々と出てくるので勉強になります。ブッカーをかけていた本も、私は読んだことない本でした。





村田 私が持ってきたのは小林泰三さんの『アリス殺し』です。なんとといっても、表紙の絵がきれい。本文が2段の段組になっていて、文章が短くて、読みやすいのがいいです。小学5年生の時からのお読書です。

新谷 ひゃー、5年生！

細田 私のは『ミカグラ学園組曲』です。ボーカロイドの音楽ユニット「Last Note.」の歌のイメージを今度は小説化したというものなのですが、なにか、単純に「青春」「青春」しているところが気に入って読んでます。



村田 図書館の仕事って、図書の貸出・返却以外にも、本の修理から書架返却みたいな仕事までいろいろな仕事があるんだなあと驚きました。もっとやってみたいです。

新谷 返ってきた本を書架にもどす作業が力仕事に思えるというのは、2人の頭が良いからですよ。2日間見ていて、たしかに私も「今年の京中生は書架返却が早いなあ（しかも全然間違えない…）」と感じました。けっこうな量の書架返却をこなしたと思います。で、どうしてこんなに早いのか考えました。出た答えは、今年の京中生も、



1日目の最初の時に、「分類」という図書館独特の考え方をパッと理解してしまったんじゃないかな…というものです。

図書館の仕事を形づくっている根本の考え方の中に、「本を分類する」という考え方があります。世の中に存在するありとあらゆる物事・概念を、0から9までの数字に置き換え、しかもその数字の特性を利用して書架に本を並べるのが図書館の「分類」なのですが、この図書館の仕事の根本の部分を、直感でも何でもいからパッと理解してしまう人と、何回勉強してもここでつまづく人がいるということではないかな…と最近思うようになってきました。まあ、図書館だけが仕事のすべてではないですからね。ここではつまづいた人でも、他の仕事では凄い能力を発揮するかもしれない。自分の能力を活かせる職場にめぐりあった人は幸運だと思います。

細田 湧学館の、3～4人の少人数でやってる職場の感じがよかったです。

村田 集密書架が入って、湧学館の中が動きやすくなったような気がします。



「アリス殺し」小林泰三/著(東京創元社, 2013)  
「ミカグラ学園組曲」Last Note./著  
(メディアファクトリー, 2013)

# 読み聞かせのための セリフ表現講座

平成27年9月19日(土)13:30～  
講師：橋口 幸絵さん（劇団千年王国）



9月19日(土)、湧学館2階文化教室で「読み聞かせのためのセリフ表現講座」を開催しました。これは北海道文化財団などによる北海道舞台塾実行委員会のワークショップとして行われ、演劇の要素を取り入れ、より魅力的な読み聞かせをするためのヒントをたくさん教えて頂きました。

講師には札幌で活動する劇団千年王国の橋口幸絵さんをお招きし、物語の読み解き方や変化の積み重ねについての解説や、ことばのキャッチボールを通じた声の出し方やイメージの表現について、実践を交えながらの充実した講座となりました。



テキストには、絵本「ともだちや」を使用し、絵本を1人ずつ全力で読んだり、2%くらいのささやき声で読んだり、と普段中々出来ないことを行いながら、参加者同士のコミュニケーションも含めあっという間のひとときになりました。

15時30分からは会場を1階に移し、本番のおはなし会として読み聞かせを行いました。読む方も聞く方も楽しく、そして真剣に絵本の世界に入り込めたのではないかと思います。



湧学館では、読み聞かせのボランティアを随時募集しています。興味がありましたら、ぜひご連絡を。お待ちしております！

## 発行

京極町生涯学習センター湧学館  
〒044-0101 京極町字京極158番地1  
TEL 0136-42-2700(代表)  
FAX 0136-42-2032  
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください  
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

